

2019 年度 法人事業報告書

(2019 年（平成 31 年）4 月 1 日～2020 年（令和 2 年）3 月 31 日)



目次

第1章 法人全体事業総括	3
第2章 法人本部事業報告	3
第3章 障がい関係事業報告	6
2019年度 障害者支援施設のぞみ園事業報告	6
第4章 高齢関係事業報告	10
2019年度 特別養護老人ホームゆたか荘事業報告	10
2019年度 デイサービスセンターゆたか事業報告	21
2019年度 ハーティヴィラ亀鶴 事業報告	22
2019年度 ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター 事業報告	22
2019年度 ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンター事業報告	25
2019年度 ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション 事業報告	26
2019年度 ハーティヴィラ亀鶴 サービス付き高齢者向け住宅事業報告	27
2019年度 ケアプランセンターゆたか 事業報告	28
第5章 児童福祉関係事業報告	29
2019年度 高松くりの木保育園 事業報告	29
2019年度 認定こども園長尾学舎 事業報告	31

【社会福祉法人 長尾福祉会 法人理念】

障害をもっていても もっていなくても 男も女も
「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」
といえる社会づくりを目指します

第1章 法人全体事業総括

2019年度は障がい者・児福祉では、高齢利用者の介護および支援体制の充実と発達障害相談事業や地域療育支援事業の充実を図った。また、施設管理事業としては経年劣化した備品や車両の更新を行い、利用者にとって快適かつ安全なサービス提供づくりに努めた。高齢者福祉では外国人技能実習生の雇用や施設内研修をとおして職員の充実と育成に取り組んだ。地域への取組としては、ゆたか荘が「2019年度はいきいき福祉まつり」の実行委員長施設として、長尾地区の福祉事業所及びボランティア団体との連絡調整役となり行事運営を行った。障害関係事業、高齢関係事業とともに通所介護事業の利用者が減少し収入減となつ以外では、予定通りの事業進捗と収支のとおりとなつた。児童福祉関係では「子ども・子育て新支援制度」による無償化については保護者への説明会を実施し混乱なく移行することができた。全体の事業収支では保育所、こども園の児童数は計画通りの推移をしたもの、準備的雇用の職員の人事費が事業費を圧迫したこともあり、早期の定員充足と定員増を目指す必要がある。

2019年度最も脅威となったのが、年度末の新型コロナウイルス感染症であった。新規受け入れの制限、利用者への自粛要請、職員への休職や自粛要請などを行うとともに、衛生備品の不足や価格高騰等、過去経験したことのない事態が起こっており、利用者や職員への対応を検討中である。2020年度（令和2年度）も引き続きその脅威にさらされるが、衛生管理や感染予防対策を徹底して、この困難を乗り切っていきたい。

第2章 法人本部事業報告

理事会・評議員会の運営

理事会の開催

【第1回】

令和元年6月6日(木) ハーティヴィラ亀鶴 相談室
議案第1号 平成30年度事業報告の承認について
議案第2号 平成30年度収支決算の承認について
議案第3号 定時評議会の招集事項について
議案第4号 任期満了に伴う理事及び幹事の推薦
議案第5号 定款の変更について

【第2回】

令和元年6月26日(水) ハーティヴィラ亀鶴 相談室

議案第1号 理事長の選任について
議案第2号 高松くりの木保育園の修繕及び日よけの設置について
議案第3号 長尾学舎の砂場の設置及び植栽工事について
議案第4号 ゆたか社の送迎車両の購入について

【第3回】

令和元年8月30日(金) 文書決議
議案第1号 高松くりの木保育園 園長 村尾昌昭の解任について
議案第2号 高松くりの木保育園 園長 森田浩之の選任について

【第4回】

令和2年1月15日(水) ハーティヴィラ亀鶴 相談室
議案第1号 決裁書類の訂正について
議案第2号 長尾学舎就業規則の承認について
議案第3号 社会福祉法人長尾福祉会給与規定の変更について
議案第4号 資金運用責任者の任命について
議案第5号 退職慰労金の支給について
議案第6号 社会福祉法人長尾福祉会の決算書類の訂正に伴う理事会による評議員会による評議員会の招集事項の決議について

【第5回】

令和2年度3月25日(水) ハーティヴィラ亀鶴 相談室
議案第1号 平成31年度 収支補正予算(第1号)について
議案第2号 令和2年度 事業計画(案)について
議案第3号 令和2年度 収支予算(案)について
議案第4号 令和2年度 資金運用計画について
議案第5号 施設長(管理者)の選任及び解任について
議案第6号 高松くりの木保育園・認定こども園長尾学舎の就業規則改正について

評議員会の開催

【第1回】

令和元年6月26日(金) ハーティヴィラ亀鶴 相談室
議案第1号 平成30年度(2018年度)計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認について
議案第2号 任期満了に伴う理事及び監事の選任について
議案第3号 定款の変更について

【第2回】

令和2年1月30日(火) ハーティヴィラ亀鶴 相談室
議案第1号 決算書類の訂正について

議案第2号 退職慰労金の支給について

施設整備・補修事業の導入支援

- ・のぞみ園
　　大型洗濯機購入
- ・ゆたか荘
　　駐車場整備・ハイエース（送迎車）購入
　　大型洗濯機購入・温冷配膳車購入
- ・高松くりの木保育園
　　プール購入
- ・認定こども園長尾学舎
　　植栽工事・プール購入

法人運営事業

2019年度は次の事業を行った。

- (1) 第一種社会福祉事業
 - ・障害者支援施設の経営
 - ・特別養護老人ホームの経営
- (2) 第二種社会福祉事業
 - ・障害福祉サービス事業の経営
 - ・障害児通所支援事業の経営
 - ・一般相談支援事業の経営
 - ・特定相談支援事業の経営
 - ・障害児相談支援事業の経営
 - ・保育所の経営
 - ・幼保連携型認定こども園の経営
 - ・老人短期入所事業の経営
 - ・老人デイサービス事業の経営
 - ・老人居宅介護等事業の経営
 - ・生計困難者に対する相談支援事業
- (3) 公益事業
 - ・居宅介護支援事業
 - ・サービス付き高齢者向け住宅事業

第3章 障がい関係事業報告

2019年度 障害者支援施設のぞみ園事業報告

2019年度は、利用者の意思及び人格の尊重、利用の立場に立った障害福祉サービスの提供、就労支援への取り組み、安心安全な生活環境作りを目標に、高齢利用者の対応の検討、グループホーム運営の充実、発達障害相談支援事業の実施、相談支援事業の充実、地域療育等支援事業を課題として取り組んできた。

施設入所支援、日中活動としての生活介護事業、就労継続支援B型事業、生活支援センターのぞみにおける相談事業やグループホーム、のぞみ児童デイサービス事業所等それぞれにおいて利用者のニーズに沿った支援活動を行って来た。地域療育等支援事業に関しては臨床心理士を中心に保育所巡回、外来療育などで

件数も増えてきている。

毎月の企画調整会議、寮会議において職員間の連絡調整を図り、職員会議や職員研修会等で職員の資質向上の研修にも積極的に取り組んで来た。また入所相談委員会を定期的に実施し入所待機者などを検討する機会を作っている。

2年3月以降は新型コロナウイルス感染症対策として利用者の外出や短期入所などの制限を一時的に実施している。

(1) 施設入所支援

個別支援計画を中心に本人、保護者の意向の把握に努めそれを反映した支援及び日課を設定、実施していくよう努めた。また個別のニーズに可能な範囲で対応する個別日課を設定し定期的に見直しも行った。

- ・環境美化は週1回全体で取り組む時間を作った。
- ・休日は楽しく充実した時間が過ごせるよう余暇支援を強化した。
- ・家庭と連携し連絡帳などを通じて情報共有しながら支援にあたった。
- ・重度の利用者に対し、絵や写真などを通じコミュニケーション支援やスケジュールを実施した。
- ・月1回安全委員会を開催し、事故、ヒヤリハット報告書の分析、再発防止対策について協議した

◎女子寮（15名）

高齢化及び重度化に伴い身体機能の衰え、高齢や行動障害のために環境調整、食事、入浴など個別の対応が必要なケースが増えてきている。寮全体では利用者や保護者の要望を反映した日中活動や個別外出などを取り入れ楽しみを感じながら豊かな生活につなげサービスの向上を目指して取り組んだ。

◎男子寮（15名）

今年度も月に一度寮での自治会も開催し自己選択、自己決定を促している。男子寮では健康維持活動として歩行や体操、余暇活動として作品制作やカラオケ、スポーツ、DVD鑑賞、また清掃活動として食堂掃除や浴室清掃などを行っている。社会参加については利用者のニーズに合った外出ができるよう支援員とマンツーマンで外出している。

◎南寮—20名

高齢化、重度化に伴い、個別の対応が必要なケースや強度行動障害への支援が必要なケースが見ら

れている。それぞれの特性に配慮した対応や環境の調整などにより比較的落ち着いて過ごせている。洗濯たたみ、歩行、余暇などの集団的な活動に加えて、個人日課や個別歩行、定期的な個別外出、全体外出等の集団と個別を混ぜながら日中活動を実施している。

<事業実績>

内容	人数	件数	日数
短期入所	15名	172件	418日
日中一時	16名	278件	

(2) 日中活動・生活介護

主として日中に、入浴、排泄及び食事等の介護、家事並びに生活等に関する相談、助言その他必要な日常生活上の支援を実施している。それ以外では創作的活動または生産活動の機会の提供、身体機能または生活能力の向上のために必要な援助を実施している。令和元年度は生活介護を3つのグループに分けⅠグループが20名、Ⅱグループが22名、Ⅲグループが20名となっている。

- ・本人、保護者の意向を確認しそれをもとに個別支援計画を作成し支援にあたった。
- ・本人なりの自立、楽しみが見つけられることを目標に掲げた日課を設定し余暇支援を実施した。
- ・サービス管理者や各部署との連携も図り、各支援マニュアルの一部見直しも行い、支援員全マニュアル確認も行った。
- ・年齢の幅や障害の程度差、常に個別の対応が必要なケースが増えていることで、生活の場や活動する空間などの工夫や整備が今後の課題となっている。

(3) 就労継続支援B型事業 13名

ダンボール組立(富士ダンボール、パック三樹)、和三盆(ぱいこう堂)、菓子工房(パン、クッキー、パウンドケーキ)、喫茶コーナー清掃、ゆたか荘清掃、デイサービスゆたかの清掃、デイサービスおしばり洗濯、社協タオル洗濯、また辛立文化センターの清掃も実施している。年間を通して園内行事に参加することで、仕事を中心にしながらも、生活感のある就労継続B型を目指して活動している。今後も工賃の向上を目指して取り組んでいきたい。

(4) 元年度入所・退所(2年3月末)

	女子寮	男子寮	南寮	通所	就労B
定員	15	15	20	10	15
入所	0	0	0	1	0
退所	0	0	0	1	0
園内移行	0	0	0	0	0
利用者数	15	15	20	12	13

(通所は定員超過でも受け入れ実施した)

(5) グループホーム

グループホームのぞみ

女性利用者5名が共同で生活している。環境美化などの当番活動などを実施しながらそれが自立し落ち着いた生活を送っている。今後も健康で安心できる生活を送っていくため相談その他の日常生活の支援を実施していく。高齢化による下肢機能の衰えが見られる利用者がいるため2年度に検討してい

きたい。

のぞみホーム 1 号館

現在男性 7 名が共同生活を送っている。入浴など生活面での支援が必要な利用者もいるが休日は買い物に出かけるなど地域で落ち着いて生活している。1 年度は職員 1 名増員し重度化対応の充実を図った。

2019年度グループホーム入所・退所

	グループホームのぞみ	のぞみホーム 1 号館
定員	6	7
入所	0	0
退所	0	0
園内移行	0	0
計	5	7

(6) 相談支援事業

生活支援センターのぞみ

地域で生活する障害者、児、その家族の様々な相談を受け対応し、福祉サービスの利用に繋げたり、他機関と連携して困り事を解決してきた。また、利用者の日々の困りごと等に対して支援してきた。虐待等の困難事例に対しては、関係機関と連携をとり対応している。障害のある方が地域で安定した生活が送れるように支援し一人ひとりに寄り添った支援が提供できることを目指すことを事業方針として取り組んだ。

<指定特定相談支援>

計画作成件数 147 件 モニタリング 118 件

<障害児相談支援>

計画作成件数 75 件 モニタリング 20 件

<指定一般相談支援>

対象者なし

上記以外のさぬき市・三木町からの委託で実施する基本相談支援

- ・障害児・者、その家族の様々な相談を受け対応をする。
- ・利用者の日々の困りごと等に対しての支援。
- ・大川圏域自立支援協議会、香川東部養護学校の進路説明会や地区懇談会、さぬき市発達障害支援連携協議会・児童対策地域協議会等に参加。

(7) のぞみ児童デイサービス事業

①事業状況

- ・放課後等デイサービス事業

6 歳～18 歳の児童生徒を対象に放課後 6 時間を基本に土曜日(月 2 回)振休日・長期休業中は終日利用(9 時から 18 時)を受け入れた。必要に応じて、前後 1 時間ずつの延長支援対応を行った。また、香川東部養護学校・長尾小学校・志度小学校、津田小学校、さぬき南小学校の下校時刻に合わせて当

所からの迎え(登所支援)を実施した。

・児童発達支援事業

1歳から就学前の幼児を対象に9時から18時の終日利用を受け入れている。必要に応じて前後1時間ずつの延長支援対応を行った。

<事業実績>

利用者数—放課後デイサービス事業 34名 3,670件 1日平均 13.90名

児童発達支援事業 7名 334件 1日平均 1.27名

日中一時支援 2名 56件 1日平均 0.28名

計41名 4,060件 1日平均 15.38名

両事業の多機能20名定員で今年度も展開してきた。定員の充足はできず今後の課題である。

(8) その他

<行事>

花見、遠足、スポーツレクリエーション、テーブルマナー、クリスマス会等計15回を実施。

<地域交流>

しょうぶまつり、いきいき福祉まつり、合同余暇、オカリナコンサートなど計18回実施

<医務>

健康診断、歯科検診、定期健診、その他健康管理、衛生管理を実施した。

<給食>

栄養ケアマネジメント、3か月に1回の保健栄養会議などで利用者の健康維持などについて協議した。

<環境美化>

年2回親子共同作業、年1回大掃除を実施した。週1回全体で環境美化に取り組んだ。

<実習>

高松大学、高松短期大学、四国福祉専門学校など計14名受け入れた。

<職場研修>

強度行動障害、利用者高齢化の対応、虐待などをテーマに計8回実施。強度行動障害の県外研修も積極的に利用した。

<スポーツ大会>

ソフトボール大会、障がい者スポーツ大会、卓球大会など計6回参加。

<防災訓練>

月1回実施。火災、土砂災害想定の訓練、AED心肺蘇生講習などを実施した。また発電機の使い方講習なども実施した。

<地域療育等支援事業>

臨床心理士1名を中心に県の療育事業を実施した。前年度と比較して大幅件数は増加している。

訪問療育事業28件・外来療育385件・施設一般30件

第4章 高齢関係事業報告

2019年度 特別養護老人ホームゆたか荘事業報告

介護の重度化とご利用者の医療ニーズも増加しており、特別養護老人ホームの機能である「終末期を安心して過ごせる体制」の整備・充実が図られるようになった。また、高リスクのご利用者の増加と共に、「配置医師緊急時対応加算」や「看取りケア加算」、「口腔衛生加算」「低栄養リスク改善加算」「認知症ケア加算」「機能訓練加算」等、専門性が高く充実したケアの提供が求められるようになり、チームケアの重要性再認識すると共に、職員が幅広い研修に参加する事で個々のスキルアップが図れるように努めた。

国の推進する「働き方改革」に沿って、職員のワーク・アンド・ライフバランスを考え、計画的に有給休暇が取得できる環境、育児支援、業務改善により、ストレスを溜め込まない笑顔溢れる職場環境であるように努力しながら、離職の防止に繋げた。安定した職場環境の中、今年度は新たにベトナムから2名の技能実習生を受入れ、6ヶ月間担当が付くことできめ細かに介護技術の伝承を行うことができた。

また、地域で開催された「いきいき福祉まつり」に長尾福祉会として協力、地域に向かって福祉の啓発及び、参加型イベントを企画する等、長尾福祉会の活動拠点である長尾の町で、福祉の向上に関わって大変成果があった。今後も地域との交流を大切に、学校・福祉・行政・地域が連携し「安心して暮らせる街」の実現に向けて協力していきたい。

I、令和1年度 ゆたか荘取り組み目標に対する成果

■専門職と連携し、自立支援・重度化防止に向けたリハビリテーションの充実

社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・看護師・准看護師・管理栄養士・歯科衛生士・認知症ケア専門士・認知症介護指導者等の専門知識を持った職員が在籍し、ご利用者に専門的なアプローチをチームで心がけた。全職員が10の委員会に分かれて積極的に活動し、委員会の中で知識や専門性を高めるとともに、各委員会が主催となって職員研修を行う等、介護技術や専門知識の向上に努める事ができた。毎月のサービスステーション会議では、1人ひとりのケアの見直しを行い、専門的な観点からの改善策を全体で話合う事で、よりご利用者の状態に合わせた自立支援について考え、最善のケアができるように努力した。

■ご利用者の視点に立った 生きがいや喜びが感じられる暮らしの提供

近隣の小学校・幼稚園・保育所と定期的に交流を行い、子どもと触れ合う機会を多く持てた。また、一緒に手遊び等、歌や遊戯を楽しむことで、穏やかな気持ちになり笑顔溢れる1日を過ごして頂けた。施設を利用していても、ご家族や地域との繋がりが保てるように、外出の機会をできるだけ多く計画し、気候の良い時は、亀鶴公園までドライブ、桜や菖蒲の花の観賞を行った。定期的に近くのスーパーでショッピングを楽しむ等、生活の中での楽しみを増やす事ができた。今後もご家族の協力もいただきながら、ご家族との外食、一時帰宅等、思い出や笑顔を増やせるご支援を続けていきたい。

■各委員会の専門性と活性化を図る

安心・安全な暮らしが継続できるよう、月内に起こったヒヤリハット・事故報告を分析し、再発

防止策を検討、対応策に問題ないかモニタリングを実施した。危機管理の意識を高めるとともに、発生時の対応・連絡体制についても研修を重ね、常に全職員が確実かつ冷静に対応できるよう研修を行った。福祉用具や介護用品も安全と快適面に配慮した製品を採用する等、最新の介護技術を学ぶため、ノーリフティングケアを導入、「介護する側・される側も負担にならないケア」に取り組む事ができている。今後も腰痛予防の為に、施設でのリスク管理を行うと共に、職員間での研修を重ねノーリフティングケアの定着を勧めていきたい。

■口腔衛生管理の充実と栄養改善に向けた取組み

ゆたか荘では歯科衛生士が勤務しており、口腔内の衛生管理を歯科衛生士の指導の下に行っている。義歯の管理・調整、口腔内の観察・清掃を行いながら、車椅子等身体の状態により、協力歯科医院への受診が難しくなってきている方には、往診で対応している。いつまでも健康で口から美味しくお食事が食べられるよう、歯科衛生士、管理栄養士、看護師、介護職員の多職種で連携し、栄養改善に向けた取組みを継続していきたい。

■家族と他職種が連携し、想いを大切にした看取りケア

年を重ね老衰で「看取り期」を見極めるのは難しいが、「残された大切な時間をどのように過ごしたいか」、その方の終末について医師を交えたカンファレンスで話し合い、体調に配慮しながら一時帰宅のお手伝いをしたり、ご本人の思い出の地までご家族と外出できる機会をご支援させていただいた。「ゆたか荘看取り介護指針」に沿って、好きな音楽を聴いて過ごしたり、お花を飾る等、ご本人らしい穏やかな最期が迎えられるよう心掛けた。看取り後のご家族アンケートを基に、見直しや反省を重ね、ご利用者に寄り添い尊厳を大切にしたよりよい看取りケアができるよう、今後も努力していきたい。

■優秀な福祉人材の確保と育成、及び技能実習生の受け入れ

新卒者以外にも経験豊富な介護人材の採用にも力を入れた。定期的に開催されている就職フェアにも参加し、中堅職員が働き易さや施設の特色等を伝える事ができた。また、スキルアップの為の資格取得を支援し、新たな資格を取った職員には資格の種類に応じて資格手当を支給した。

今年度は技能実習生を受け入れ、介護技術の伝承を行っている。2人とも熱心に仕事を覚え、やさしく・丁寧にご利用者に接する態度は、職員にとってもいい刺激となり見習うべき部分が多くある。技能実習生のレベルアップと様々な研修に職員を参加させる事で見識を広め、専門性を高める事ができた。今年度は新たにアセッサー（介護プロフェッショナルキャリア段位資格）の受講に2名が参加し、3名のアセッサー資格者ができた。実践的スキルの評価基準をもとに、効果的な人材育成、介護技術の見える化、スキルアップの道筋が示せたらと思う。

■福祉の啓発と地域貢献活動

地域と施設がお互いに助け合い、地域の一員として施設を活用して頂けるような取り組みを継続している。長尾小学校3年団に、車椅子体験で子ども達が福祉に興味が持てるような体験型の福祉啓発活動を実施等、地域で暮らす認知症の方への理解とサポートができるよう、地域包括支援センターと連携し「認知症サポーター」の養成講座を6年生に開講した。地域の美化活動や朝の「あいさつ運動」等、地域や子ども達と交流する機会を持つことで、地域の福祉ニーズの把握に繋がった。他にも

「いきいき福祉まつり」の企画・協力、いきいきネット企画の防災訓練等、福祉の啓発と地域をよくする活動に数多く参加する事ができた。

■効率的運営と安定的経営

ご利用者の高齢化・重度化により、長期的な入院治療を必要とされる方が増えており、長期入所者の空床をショートステイで活用する等、効率的な運営を心がけた。また、家庭の事情で緊急ショートステイの増加、また、受診・外出送迎等、本来ご家族対応の送迎や付き添いが増えてきている。長期入所との違いを明確にする観点から、対応が難しいご家族に対しては、介護タクシーの活用や送迎費用の負担をお願いするように改善していきたい。

II、有資格者の状況及び資格取得支援（令和2年3月末現在）

今後も質の高いケアを目指し、職員全体が自己研磨に励むとともに、スキルアップに向けての資格取得支援を続けていきたい。

資格名	人数（重複有）	今年度取得者
社会福祉士	2	
施設福祉士	1	
介護福祉士	26	3
管理栄養士	1	
介護支援専門員	5	
主任介護支援専門員	1	
看護師	3	
保健師	1	
准看護師	3	
保育士・幼稚園教諭	1	
歯科衛生士	1	
ヘルパー2級	2	
実務者研修修了	4	
認知症実践者研修	6	1
認知症実践者リーダー研修	3	1
防火・防災管理者	2	
喀痰吸引（14時間・50時間）	4	
1種衛生管理者	1	
技能実習責任者	1	
技能実習指導者	1	
技能実習生活指導者	1	
実習指導者	4	
アセッサー	3	2

III、施設サービス活動

<施設サービス部門>

【生活相談業務】

長期・短期入所の利用相談にあたっては、随時相談業務を実施し当法人内の担当者と連携を図りつつ、介護負担軽減・ご利用者のサービス利用につながるよう勤めている。相談内容としては体調不良や転倒骨折、認知症の進行により介護が必要となり、自宅での生活が困難と申し込みに来られる方が増えてきている。当年度としては、ご夫婦での申し込みがあり、高齢世帯であった為ご家族が状況を把握しておらず、なかなか十分な介護サービスに繋げられないケースもみられた。

現在利用中の入所者への相談業務としては、重度・高齢化の進行にて入院（入院退所）と看取り介護の増加がみられたことから、終末期の対応に関しての検討が増えた。

[利用状況]

短期入所生活介護(予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1	1	2	10
要介護 1	1	1	1	1	1	3	2	2	2	2	3	3	22
要介護 2	10	10	10	9	9	10	8	6	6	4	5	4	91
要介護 3	19	19	19	20	21	20	23	23	25	23	20	23	255
要介護 4	2	2	2	0	1	2	1	2	4	2	3	2	23
要介護 5	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	24
実人数	35	35	36	34	36	32	36	34	39	33	33	35	425
延べ人数	609	587	597	608	617	618	602	613	694	624	564	638	7371
月平均利用者数	20.3	18.9	19.9	19.6	19.9	20.6	19.4	20.4	22.4	20.1	20.1	20.6	20.2
稼働率	101.5	94.7	99.5	98.1	99.5	103.0	97.1	102.2	111.9	100.6	100.7	102.9	101.0

長期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	4	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	25
要介護 3	11	11	11	10	10	11	12	13	13	13	14	14	143
要介護 4	14	15	17	17	17	16	16	15	16	16	16	16	191
要介護 5	21	21	19	20	19	21	21	19	19	19	19	19	239
実人数	50	50	50	50	49	51	50	50	49	49	50	50	598
延べ人数	1439	1486	1437	1472	1475	1408	1469	1394	1436	1519	1446	1517	17498
平均介護度	4	4.1	4	4	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
月平均利用者数	48.0	47.9	47.9	47.5	47.6	46.9	47.4	46.5	46.3	49.0	49.9	48.9	47.8
稼働率	95.9	95.9	95.8	95.0	95.2	93.9	94.8	92.9	92.6	98.0	99.7	97.9	95.6

入所検討委員会

入退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	1	2	1	1	3	2	2	1	0	1	0	15
介護度 5	1			1		2	1	1					6
介護度 4		1	2		1		1		1		1		7
介護度 3						1		1					2
退所者数	1	1	2	2	0	4	2	2	0	0	1	0	15
医療機関入院	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	6
死亡	1	0	1	1	0	3	1	2	0	0	0	0	9

2019年度末 申し込み待機者数 231名

【給食】

給食サービスの安定・充実を目標とし、給食委託業者と連携・意見交換に重点をおいて進めていった。複雑化する療養食、嗜好に関しても個別に対応し、また行事食では、ムース食を取り入れ、ペースト食・MIX食の方にも見た目も鮮やかな食事を提供する事ができ、多くのご利用者に食事からも季節を感じて頂き「美味しい」「また食べたい」等の声が聞けた。

また、カンファレンスに参加する事でご利用者・ご家族の意見を伺い、よりご利用者のニーズに応えるように努めた。栄養管理では毎日の食事量・摂取状況・体重の増減や身体状況を把握し、食事内容や形態など多職種で話し合い連携する事でご利用者ひとり一人に合わせた栄養管理を実施することができた。

経口維持に関しては、嘱託医の指示のもと各部署協働で食事形態の見直し・変更を行う事ができた。その一連の経過を栄養マネジメントの手順に従い、加算につなげた。

衛生面に関しては、調理従事者の徹底した手洗い・健康チェック・検便を実施し、月に1回厨房の害虫駆除を行った。

【医務】

「高齢に伴う疾病や日常生活動作の低下など、ご利用者の気持ちに沿った心のこもった適切な医療や機能訓練の提供を行う」を目標に、疾病の早期発見、体調管理を重点的に行った。治療方針については、日々変わる体調の変化にも早期に気づき、その都度ご家族に説明しカンファレンスを開催するなど、取り組みの方向性を明確に、個々の意向に沿った医療が提供できた。昨年度は感染症の発生に伴いマニュアルの見直し・改善を行った為、職員の対応の均等化が図れ、感染症の予防に努めることができた。また、ノロウイルス発症時の対応策として嘔吐物の安全な処理法・物品を見直し、1・2階のサービスステーション内に「嘔吐処理セット」を設置することで瞬時に動ける環境も整えた。施設ご利用者も高齢化が進み、体調の急変する方・看取り期の方も多くなっている。今後も感染症の発生に注意しながら、ご利用者・ご家族の方々の意向に沿った医療の提供と、尊厳を大切にした看取りケアについても心を込めて実施していきたい。

<ご利用者の健康管理>

血圧測定・体重測定（毎月）、検尿、結核健診（該当者）、血液検査（年1回と必要時）
 嘱託医の回診（週2回と必要時）、看護師による健康観察（毎日）、内服薬の管理
 褥瘡管理シートの作成（週1回）、褥瘡検討会（月1回）

<介護職員腰痛検診>

年2回、嘱託医にて

<職員健康診断>

年1回（夜勤職員については、年2回）

<医務実績報告>

	受診数	入院者数	退所者数 (死亡)	施設 (看取り)	注入者数	喀痰吸引者
4月	28	3	1	1	6	0
5月	27	3	0	0	5	0
6月	17	4	1	2	5	0
7月	32	3	1	1	4	0
8月	21	3	0	1	4	0
9月	22	1	3	3	4	0
10月	28	3	1	1	4	0
11月	41	6	2	2	4	0
12月	32	1	0	0	3	0
1月	36	1	0	0	3	0
2月	28	0	0	0	3	0
3月	25	0	0	0	3	0
総数	337	28	9	11	48	0

<再入院>：同一疾患にて入院延件数

1件

<最多入院歴>

1、肺炎（誤嚥性肺炎も含む） 2、尿路感染症

<その他>

医療廃棄物の管理、医薬品、医療機器の管理

【サービスステーション】

ご利用者の尊厳ある生活が継続できるよう、専門職との連携を図りながら心身の状態に合わせたサービスを提供できるよう努めてきた。サービスステーション会議・フロア会議の参加率を80%、ケアカンファレンスの参加率を80%以上と設定しており、勤務時間内で職員間が協力しながら90%以上の出席率を確保する事ができた。

前年度にはノーリフティングケアを施設の取り組みとして導入したが、福祉用具の使用状況についての見直し・評価が十分に行えていない状況にあった。本年度は介護技術向上委員会を中心にスライ

ドボード使用に関する手順書を作成したり、職員対象にアンケートを実施するなど現状把握に努めノーリフティングケア促進に努めてきた。サービスステーションの中では徐々に浸透しつつあるが、他部署への情報発信が十分に行えておらず理解度に差ができるおり施設全体での取り組みが十分に行えていない状況にあった。来年度からはノーリフティングケア推進委員会を立ち上げ、各専門職を含む話し合いの場を設けていきたい。

年間行事に関して、季節感が感じられる多彩な行事を計画・開催した。台風の影響で楽しみにされていた10月のバス遠足が中止の運びとなった。今後もご利用者の安全面を第一に考えた上で、日々の生活が豊かになるような行事を計画していきたい。

【実施した行事】

- 4月 お花見
- 5月 鯉のぼりを楽しむ会（地域交流行事）
- 6月 菖蒲観賞会（長尾亀鶴公園）
- 7月 七夕まつり
行基ハイツタ涼み会（地域行事参加）
- 8月 納涼夏祭り
- 9月 敬老会
- 10月 ながおいきいき福祉祭り（地域行事参加）
- 11月 長尾地区文化祭（地域行事参加）
- 12月 忘年会
地域交流餅つき大会（地域交流行事）
- 1月 新年祝賀
初詣
- 2月 節分豆まき
- 3月 開荘記念行事
のぞみ園ひな祭り茶会
 - 喫茶（3回／月）
 - ショッピング・外食ドライブ（4月～10月）
 - 個別外出
- [S S会議] ・定例開催 12回／年
- [グループ会議] ・定例開催 12回／年

【介護支援専門員】

介護保険の更新期間に合わせ、原則6ヶ月毎に1回のケアプランの見直し、作成、カンファレンスを開催しケアの検討、変更、計画を行った。ご利用者、ご家族・各部署職員、看取り期には嘱託医にも意見を伺いながらアセスメントを行い、ひとり一人のご利用者に応じたケアプラン作成に努めた。ケアカンファレンスには、ご利用者、施設職員だけでなく、ご家族にも参加を依頼し日程調節を行った上で開催した。仕事等で参加できないご家族には電話や来荘時に意向を伺い、ケアプラン説明し同意をいただいた。

月1回開催される「香川おもいやりネットワーク事業」のさぬき市地域ネットワーク会議個別ケー

ス検討会に参加。さぬき市社会福祉協議会や民生委員、参画法人の方々と事例について相談、支援や地域での広報活動を行った。

また、今年度からは副施設長と2名で、高松市・さぬき市から委託された要介護認定調査を行った。

[カンファレンス]	・定例開催	67回／年（1月末現在）
	・ケアの変更・看取りケア	14回／年（1月末現在）

[認定調査]	・高松市からの委託	10件／年（1月末現在）
	・さぬき市からの委託	13件／年（1月末現在）

【地域施設連携担当】

地域貢献活動としてあいさつ運動やクリーン活動を継続的に実施する。また、今季は地域イベントとして取り組んでいる『ながおいきいき福祉まつり』において“健康・福祉”に力を入れ、地域のニーズに沿った催しを企画、多くの方の参加があり福祉への関心を高める事ができた。

ご利用者が楽しみにしている児童との交流についても定期的交流、行事を通して関わりが持て喜んでいただくと共に、子ども達には福祉に興味をもっていただく機会を作る事ができた。

保育所・幼稚園との交流	3回／年
地域団体との交流	5回／年
小学校との交流	6回／年（1学年2クラス×3回ずつの交流）
地区水路清掃（川上自治会）	1回／年
あいさつ運動	6回／年（土・日曜日、祝祭日を除く毎月8日に実施）
地元地域クリーン活動	10回／年
地域祭事	1回／年（いきいき福祉まつり）

人材育成においては多くの学生を受け入れ体験する事で福祉施設について学んでいただくとともに、職員にとっても刺激となり良い自己啓発の機会となった。

今後も次世代の担い手として積極的に受け入れを実施していく。

高校生総合的学習	延 38名
徳島文理大学薬学部	延 10名
中学生共生フィード学習	延 30名
傾聴ボランティア養成口座	延 10名
高齢者スキルアップ事業「職場見学・体験会」	延1名

今後も社会福祉法人として地域との関わりを大切にしながら、福祉に関する啓発活動に取り組んでいきたい。

【機能訓練】

ご利用者の身体能力を事前に把握し、理学療法士と連携を図りながらリハビリプログラムを作成した。また、他の職種が集まるカンファレンスにも参加し、ご利用者が今後も日常生活に困る事なく、

自立に向けた生活が行えるためのリハビリを目指した。ご家族にはプログラムの実施内容・変更などがあればその都度ご説明し、ご利用者・ご家族との信頼関係を築きながら、ご要望に応えられるような支援をしていきたい。

【歯科衛生士】

協力歯科医院のご協力により、年1回の歯科検診で虫歯や歯周病の早期発見をし、訪問診療の依頼や受診をする事で早期治療が出来た。訪問診療では嚥下内視鏡検査で嚥下状態の確認・食事形態や食事の姿勢・介助方法等を歯科医師から指導頂ける事で、職員の口腔ケアに関する意識も高まり情報共有ができる。今後も口腔体操や月1回の職員研修を通してご利用者の方が楽しく食事ができ、誤嚥なく笑顔のある快適な生活が送れるよう職員一同創意工夫していきたい。

IV、各種委員会活動

〔経口摂取推進委員会〕

嘱託医の指示のもと、毎月経口維持計画を作成するとともに、水飲みテストを実施する。看護師・歯科衛生士・介護支援専門員・介護職員・管理栄養士を委員会メンバーとし、多職種が連携し食事形態の見直しを行った。

今後も定期的に委員会を開催し、最後の時まで美味しく食事を摂っていただけるように取り組み、支援を行っていきたい。

経口維持加算算定者

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23名	25名	26名	24名	24名	25名	24名	25名	24名	24名	25名	25名

〔医療ケア・感染症対策委員会〕

感染対策については、昨年度マニュアルの見直し・改善を行ったことにより職員の対応の均等化が図れ、感染症の予防に努める事ができた。しかし、まだインフルエンザ等の感染症は集団感染の原因となるため、今後も「持ち込まない」「広げない」「持ち出さない」に注意し感染症対策を行っていく。

目標にしていた「褥瘡・皮膚トラブル予防と早期発見」では、予防対策を具体的にあげ実施した。循環不全が原因の褥瘡については、足浴の実施や靴下・靴の選定を行うことで予防に努めた。再発予防の啓発として、介護職員に対してその週の褥瘡シートの回覧から、1年間のシートを保存してある褥瘡ファイルの回覧に変更する事で、個々の好発部位を理解することや、再発者の把握することで、早めの対策・情報共有が図れた。

〔レクリエーション・くもん学習療法委員会〕

「人との関わり馴染みの関係作り・笑顔で楽しく過ごせる」を目標に、毎月振り返りを行いレクリエーションの内容を検討した。曜日ごとにレクリエーションの内容を固定することで職員が支援方法を共有できた。日により支援時間が短くなることがないよう、早出勤務者が対応することで無理なく行えた。今後もご利用者・職員共に笑顔が多くみられるレクリエーションが実施できるよう、全職員が協力していきたい。

くもん学習療法では、学習回数の確保の為に遅出が担当した。くもん学習の活性化を図るため、学習者同志が楽しく交流できる2対1の支援方法を推進したが、その対応に難しさを感じる職員もあり、

職員育成の必要性を感じた。また月1回の合同学習会は定着している為、各部署で協力しながら楽しく認知症進行予防ができるくもん学習の魅力を多くの方に伝えていきたい。

[入所検討委員会]

31年度は前年度と比較しても看取り介護のご利用者が増加している（31年度12月時点で9名、30年度5名）。また、体調が悪化したご利用者も増加し、入院退所が前年度1名に対して今年度は6名となった。その都度委員会を開催しているが、退所者が短期間に複数重なる事もあり調査等で新規利用者の受入れに時間がかかる事があった。

[身体拘束・虐待防止委員会]

「ご利用者の尊厳と思いを大切にした個別ケアの提供」を目標に活動した。委員会の中で職員アンケートを行い、身体拘束・虐待に対する意識を確認した。全体に声かけや対応（ケア）の中で、身体拘束や虐待と誤解されやすい接し方について話し合い、注意喚起を行った。身体拘束はご利用者の自尊心を傷つけるとともに、できる機能を失う危険性がある。一人ひとりが「身体拘束・虐待」について考え方自己覚知を行い、より質の高いケアを提供できるようにしたい。

[安全対策委員会]

「事故の再発防止に向けて、職員間で対策案を検討し事故抑止に努める」を目標に活動した。事故の再発防止に向け担当者が事前に対策案を検討した上で、グループ会議において再度話し合った。対策内容が十分に周知されず、再発を防げなかったケースもみられたため、来年度は再発防止策を具体化・職員への周知を徹底することで、事故防止対策が適切に実施できるよう進めていきたい。

[防災委員会]

各部署会議開催時、隔月・随時（6回/年）で委員会を開催し、避難訓練・備蓄品の確認と追加整備を行った。夜間火災想定避難訓練、土砂災害想定避難訓練、地震災害想定避難訓練を行ない、職員の防災意識を高めると共に大川広域消防、さぬき市危機管理課の行政、警察署、法人関係施設と連携を図ることができた。今後も、様々な場面を想定した防災訓練を計画し、随時マニュアルも見直しながら、多くの職員が訓練を経験する事で、有事の災害にも慌てず冷静な行動がとれる組織づくりを行っていきたい。

[研修委員会]

職員会議の場において各委員会による研修を実施する事で専門的な知識を多職種で交換、共有する事ができた。また、外部研修においては出来る限り全員が参加できるよう配慮し、知識向上だけでなく、他の同職種の方と関わりをもち多様な意見にふれる事で自身の視野を広げられるように努めた。今後も施設内外の研修を通して個々はもちろん、施設全体のスキルアップ向上に努めていきたい。

[業務改善委員会]

ノーリフティングケアの導入を行った。職員が外部研修に行き福祉機器や用具の使い方、介助者の身体の使い方を施設内研修で周知した。職員によって技術の差はあったが、適切に指導する事により少なくなってきた。まだまだ課題はあるが少しづつ改善し定着につなげたい。

オムツ製品の変更を行っている。職員にアンケートをとりより良いオムツの使用について検討した。メーカーの協力もあり、おむつフィッターによる研修を重ね、技術の向上に努めていきたい。

[介護技術向上委員会]

委員会の目標を「委員会メンバーからの発信力を高め、周知事項に関して同一レベルで対応ができるか評価・再周知を徹底していく」とし、取り組みを行った。情報発信力を高めるために、1年を通じ課題検討する内容を『ノーリフティングケア』『車椅子・ベッド上でのポジショニング』の2点に絞り取り組みを行ってきた。ノーリフティングケアでは、各階に必要個数福祉用具を購入し必要な方の居室へ設置した。福祉用具が活用できるように委員会メンバーから他職員へ指導や助言も行えており、委員会としての発信力が高まってきたように思う。来年度は推進委員会を発足することで、計画的にノーリフティングケアを推進していく。

V、ご家族との連絡、協力体制の強化

[家族会の開催]

■第1回家族会 (平成31年6月16日)

- ・平成30年度事業報告
- ・昼食交流会

■第2回家族会 (令和元年 9月15日)

- ・敬老会 長寿番付表による祝い

■第3回家族会 (令和2年 2月16日)

- ・令和 元年度事業報告
- ・出張デパートの開催

[アンケート等]

■ご家族アンケート 年1回実施

■給食アンケート 年1回実施

2019年度 デイサービスセンターゆたか事業報告

2019年度利用者数において、前年と比較して落ち込み顕著にみられていた。要因として、在宅サービスから入居サービスへ移行しての終了者が増加し、新規利用者数を上回ったことが挙げられる。入居サービス移行者の傾向として、週3回以上のデイ利用で一日通して見守りが必要な方であり、家族の介護疲れが入居（入所）への判断となっている。利用対象者への対応は、年々ニーズの多様化が求められており、認知症者・要介護認定の中重度者に対して在宅生活継続に向けた取り組みや自宅内を想定した機能訓練の実践などより内容が求められるようになってきた。

また、コロナウイルス感染症蔓延に伴い、感染症対策への施設での取り組みを再考していくことが課題として挙げられる。

これから通所サービスのあり方としていかにして在宅生活が続けていけるか、個々の状況を鑑みながらのプログラム作成が重要となってきていることを実感した。

1. 要介護度別利用者数・平均利用者数・稼働率

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(人)	1,063	1,171	1,109	1,208	1,092	1,104	1,138	1,068	994	948	1,030	1,111
稼働率 (%)	76	81.2	85	84.4	77.4	85.5	80.9	79.5	79.8	78.1	82	81.2

・介護予防教室事業（さぬき市委託事業）

さぬき市より事業委託として始めた介護予防教室も3年目となり、地域への認知度も徐々に増えた。体操プログラムを中心に身体機能低下への意識を継続支援していくよう取り組みが続けられている。コロナウイルス感染症による影響にてさぬき市より3月は休止となった。

・年間延べ人数（一日コース）1,004名 （半日コース）143名

2. 会議状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
デイ会議	26	24	28	26	30	27	25	29	27	24	28	コロナ対策につき書面配布

新規・追加利用者の情報共有や同性介護の視点からサービスの評価、見直しを検討をする。又、レクリエーションの月間予定の検討を行うとともに、利用者個別的心身面の評価・見直し等を定期的に行なうことで現状に合った対応を心がけていった。

3. 情報機能

- ・デイサービス便りの発行 :毎月末発行
- ・ホームページ更新 :3か月ごとに更新

4. 地域交流事業（外部団体・個人）

- ・4月:ドジョウ掬い披露（国方様）
- ・7月:錢太鼓・舞踊（さぬき市民俗芸能保存会）
- ・7月:腹話術・オカリナ演奏（退公連大川支部）
- ・9月:フラダンス披露（買うびりフラスタジオ レアレア）
- ・10月:手品・舞踊（ボラ衛門）
- ・10月:紙芝居・歌・ダンス（人権擁護委員）
- ・12月:歌・踊り（聖母幼稚園）
- ・2月:太鼓演奏（琉球国まつり太鼓）

2019年度 ハーティヴィラ亀鶴 事業報告

【概況】

ハーティヴィラ亀鶴では今年度から機能訓練職員を採用し、施設全体の機能強化体制を図った。そのことにより、各事業のより活発な利用者情報の共有ができた。今後もサービス横断の支援を引き続き継続していきたい。また、地域のネットワーク事業への参画により地域の困っている人の支援を通して職員のコミュニティースキルの向上に努めた。

【施設内共通事業】

事業所連携会議の運営

香川おもいやりネットワークへの派遣（森田）

運営委員会への委員派遣（毎月）・地域ネットワーク会議への派遣（山本）

相談派遣、フードバンク、一時金支出、中間的就労、買い物援助、食事サービス等の援助

資格取得支援

介護福祉士取得支援 2名

2019年度 ハーティヴィラ亀鶴ショートステイセンター 事業報告

既存利用者の重度化、利用日数延長や定期利用は増加している。入院や死去、特養への長期入所と利用終了になることもあります、月ごとの利用状況には波があった。また都合でキャンセルとなることもあります、予定通りの利用に繋がらないケースもあった。

今後も長期入所や死去等で利用終了となるケースはあると思われる。居宅介護支援事業所と連携を取りながら、利用者の受け入れ、利用が円滑に行えるようにしていきたい。

1. 利用状況について

【利用延べ人数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	2	3	0	0	0	0	2	0	3	0	10
要介護1	73	68	28	16	19	26	21	20	26	22	38	20	377
要介護2	85	106	118	90	104	92	87	66	84	92	85	67	1076
要介護3	213	229	249	204	238	243	242	197	194	170	202	258	2639
要介護4	98	67	96	155	136	122	136	165	195	238	200	220	1828
要介護5	114	120	90	89	79	49	43	75	68	55	29	31	842
合計	583	590	583	557	576	532	529	523	569	577	557	596	6772

- ・前年度同様、要介護3以上の利用者の割合が高い。

【稼働率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用合計	583	590	583	557	576	532	529	523	569	577	557	596	6772
1日平均	19.4	19.0	19.4	18.0	18.6	17.7	17.1	17.4	18.4	18.6	19.2	19.2	18.5

- ・30年度稼働率：92.5% / 稼働率は目標の95%には至っていない。

2. 委員会活動について

①感染対策委員会

開催日	4/17	5/21	6/20	7/18	8/19	9/17	10/16	11/12	12/25	1/16	2/18	3/17
人数	5	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6	6

- ・新型コロナウイルスにより、感染対策の意識が高まり、インフルエンザの罹患者は職員1名に抑えることが出来た。
- ・口腔ケアの他、季節によって流行するインフルエンザ、ノロ等を感染症の研修として随時行っている。
- ・感染対策マニュアルについては年1回の見直しを行っている。
- ・今後も感染経路の遮断に勤め、拡大を防ぐことが出来るように時期ごとに流行する感染症の研修を実施し、職員の意識レベルの向上に努めていく。

②レクリエーション委員会

- ・手作りおやつでは作業を分担し、利用者の参加が出来るように配慮した。出来たおやつを食べながら「美味しい」「上手くいった」と声を聞くことが出来た。
- ・季節に応じてドライブも実施。普段は外出が難しい利用者も気分転換を図ることが出来ていた。
- ・誕生日プレゼントは予算の中で柄違いのフェイスタオルを購入。生活の中で使っていただけている。

③安全対策委員会

- ・【年間件数】事故報告：75件、ヒヤリハット：7件
30年度と比べて事故、ヒヤリハットとともに増加している。特に事故報告は13件増加で転倒や転落、内出血、剥離が特に多い。

- ・職員が入れ替わり、新しい職員が入ってきた中で見守りが手薄になる、情報共有が十分でないことが原因で発生する事故も多く見られている。見守り体制の見直し、情報共有を念頭に置いて業務に当たるように周知していく。
- ・落薬、誤薬も増加傾向のため、薬情報の確認や内服時には飲み込むまでの確認をしっかりと行うよう引き継ぎ等で発信していく。

④生活向上委員会

開催日	4/3	5/7	6/5	7/2	8/2	9/5	10/4	11/3	12/2	1/6	2/4	3/3
人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4

- ・各ユニット、看護師、生活相談員で利用者の状態を把握、ケア内容の検討をすることが出来ている。
- ・委員会で決定した事項は各ユニット会（1週間以内）、会議録の作成で全職員が確認できるようになっている。すぐに改善を要することは口頭や書面、毎日の申し送りで周知を行っている。
- ・居室の環境整備や本人の状態に合わせた介助、状況に合わせたケアは十分とはいえない状況である。利用者が安心・安全に過ごせるよう、情報共有や『報告・連絡・相談』を継続していきたい

⑤拘束委員会

開催日	4/3	5/7	6/5	7/2	8/2	9/5	10/4	11/3	12/2	1/6	2/4	3/3
人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4

- ・身体拘束については実施していない。（センサーポールはショート利用者で必要な方に使用中）
- ・物理的（4本柵、ミトン型手袋等）な拘束はしていない。
- ・言葉で利用者の動きを制限する言葉（スピーチロック）の認識は薄い部分もある。研修を行い、職員は言葉による拘束もあるということを理解した上で支援を行っていく。

3. その他

①環境整備

- ・月ごとに項目を決め、分担表を作成して実施を行った。（8、1、2月は実施せず）
- ・枕の洗濯や乾燥、エアコンフィルターの掃除は季節の変わり目（4、7、1月）に実施。
- ・カーテンの洗濯は痛みやすくなっているため、ホールとラウンジのみ実施。

②ユニット会議

亀	開催日	4/13	5/10	6/7	7/9	8/5	9/9	10/11	11/8	12/7	1/7	2/6	3/5
	人数	5	5	5	4	5	5	4	4	6	6	6	6
鶴	開催日	4/5	5/8	6/10	7/8	8/12	9/11	10/8	11/5	12/5	1/10	2/9	3/11
	人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	6	6

- ・各ユニット利用者のケア内容の検討を行った。また生活向上委員会で決定した事項を周知している。
- ・夜勤や日勤で両ユニットの対応することが多いため、他ユニットの情報を把握できるようにしている。

2019年度 ハーティヴィラ亀鶴デイサービスセンター事業報告

【概況】

提供規模、時間、機能訓練実施体制それぞれのニーズから、年度前半については利用者数も増加していましたが、要介護1、要介護2の割合が多く、実収入は伸び悩んだ。年度後半はその利用者数も減少傾向となり、年間を通して利用者減、収入減となっている。特に3月の新型コロナウイルス感染症での対応が追い打ちとなり運営状況は厳しかった。しかし感染者を出さないよう徹底した感染症対策は、利用者・職員の感染対策の意識向上につながった。

1. 利用状況（人数・介護度別）

月	介護度別							実籍数	延べ数
	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5		
4	5	10	22	19	12	1	1	70	727
5	4	11	23	19	12	1	1	71	776
6	4	11	24	19	9	2	1	70	734
7	4	10	23	19	8	2	1	67	794
8	4	10	21	19	6	2	1	63	760
9	3	12	21	18	7	2	1	64	752
10	3	12	21	19	6	2	1	64	793
11	3	12	23	16	6	2	2	64	713
12	3	11	23	18	5	2	1	63	657
1	3	10	20	18	5	2	1	59	645
2	3	10	20	18	8	3	1	63	662
3	3	9	19	17	8	3	2	61	733

延べ人数 8,746人 1日平均 28.4人

2. 総合事業（からくり教室）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	実数	延数
1日	16	14	19	23	15	20	23	20	23	24	26	-	7	223
半日	11	9	5	10	6	7	10	7	7	7	7	-	2	86

・3月は新型コロナウイルスの影響で中止となる。

3. デイサービス職員会議

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	25	23	27	25	29	26	24	21	26	23	27	26
参加数	11	12	13	11	9	10	12	11	11	12	12	9

・当月の利用状況・利用者待遇・来月の予定について周知・話し合いを行う。

・職員間での研修を実施した。

4. その他

・情報としてデイ通信を毎月1回発行した。

2019年度 ハーティヴィラ亀鶴ヘルパーステーション 事業報告

2019年度は外部サービスの減少もあり、利用者総数としては減少したが、要介護度が上がったことにより、一回当たりの単価が上昇した。サービス時間帯が重なることから、利用者へ負担をかけることがあったので、人員の配置等検討の余地がある。

【利用者の内容】

要介護度別利用者

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護1	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	25
要介護2	4	4	4	4	4	4	4	3	5	5	3	3	47
要介護3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
要介護4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合計	10	9	9	9	9	9	9	9	10	10	8	8	103

サービス別平均利用回数(2019.10～改訂あり、改定後)

サービス内容	単位数	延べ回数	実人数
身体1・II	274	755	6
身1生1・II	347	0	0
身1生2・II	419	52	1
身体2・II	435	237	4
身2生2・II	580	0	0
訪問介護初回加算	200	0	0
生活2・II	200	226	4
生活3・II	246	15	1
訪問型独自サービスI・同一	1,055	0	0
訪問型独自サービスII・同一	2,108	97	1
訪問型独自サービス初回加算	200	0	0

2019年度 ハーティヴィラ亀鶴 サービス付き高齢者向け住宅事業報告

主要事業

安否確認サービス

健康確認サービス

食事サービス

会議の開催

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
19日	16日	20日	26日	30日	24日	25日	22日	21日	25日	20日	20日

利用者の状況（2019年3月31日現在）

性別	男性	5人
	女性	6人
年齢別	65歳未満	0人
	65歳以上75歳未満	0人
	75歳以上85歳未満	1人
	85歳以上	10人
要介護度別	自立	0人
	要支援1	0人
	要支援2	1人
	要介護1	2人
	要介護2	5人
	要介護3	2人
	要介護4	1人
	要介護5	0人
入居期間別	6ヶ月未満	0人
	6ヶ月以上1年未満	1人
	1年以上5年未満	8人
	5年以上10年未満	2人
	10年以上15年未満	0人
	15年以上	0人

（入居者の属性）

平均年齢	89.3歳
入居者数の合計	11人
入居率*	100%

2019年度 ケアプランセンターゆたか 事業報告

事業目標に対し、介護保険制度に関し、ご利用者様に適切に説明できるように変更時には把握し説明できる様に事業所内でも確認を行った。

介護相談については、他の事業所からの紹介や事業所に相談に来られた方には出来るだけ丁寧に接し必要な時には包括支援センターにつなげるようとした。

研修に関し、知識を高めるために確認の為、県主催、さぬき市主催等研修に参加した。

安定した運営に対しては、3月よりケアマネ5名体制になり 事業所全体での請求実績件数 140 を目標になってきた。達成する月も出来ているが、130台後半の請求となっている。次年度はもう少し安定した件数、また個々に件数のばらつきが無い様にしていきたい。

2019年度 利用者数 ケアマネージャー 5名

	新規利用 (介護)	新規利用 (予防介護)	契約終了 (介護)	契約終了 (予防介護)	要介護 利用請求者数	予防介護 請求者数
4月	2名	0名	1名	0名	141名	16名
5月	3名	1名	3名	0名	147名	18名
6月	3名	3名	5名	0名	144名	21名
7月	2名	0名	2名	1名	139名	21名
8月	2名	0名	1名	0名	137名	20名
9月	2名	0名	1名	0名	138名	20名
10月	3名	0名	1名	0名	140名	20名
11月	2名	0名	2名	0名	139名	20名
12月	3名	0名	2名	0名	141名	20名
1月	1名	1名	2名	0名	137名	21名
2月	4名	1名	4名	0名	139名	21名
3月	2名	0名	2名	1名	139名	17名
	計 29	計 6	計 23	計 2		

第5章 児童福祉関係事業報告

2019年度 高松くりの木保育園 事業報告

【概況】

開園2年目は昨年の職員の約半数が新設の長尾学舎に異動になり、計画的ではあったが難しいクラス運営でのスタートだった。新学期当初は保護者からの意見も多く、改善変更をすることもあり落ち着くまで約4ヶ月を要した。園長の交代により給付体系も変更になると同時に園児の追加入園も体制強化を先に考え年度末まで行えなかった。

保育に関しては0歳児から2歳児までの緩やかな担当制の確立を目指して、随時の研修会や意見交換をしながら知識や技術の共有化を図った。また障害児保育についてはのぞみ園の療育支援を受けながら保育士のスキル向上に努めた。

【保育理念】

法人理念のもとあらゆるサポートや機会の提供を行い、「大人になり社会に出てものぞみを持って豊かな心で生き抜く基礎を養う。子どもたちが幸せに過ごせるよう、乳幼児の健全な発達を助長し家庭的な保育を実践する。

【基本方針】

- 1 保育内容と職員の充実で計画定員の早期充足を達成し安定した運営をしていく。
- 2 幼保連携型認定こども園の移行を視野に、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う。
- 3 地域教育を重んじ、地域行事や伝統の継承や地域の魅力を楽しめる子どもを育てる。

【年度目標】

- 1 笑顔であいさつ
- 2 利用者や地域の方々とのつながりを大切にし、心を向けて信頼関係を築く。

【事業・運営実績】

- 1 より質の高い教育・保育を実践

- (ア) 保育所保育指針に基づき、園児の発達の連續性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく、乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、PDCAサイクルを用いて質の向上を目指した。
- (イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り広げることのできる環境づくり、年齢を超えた子ども同士の関わりが自然にできる環境づくりを進め、発達に即した教育・保育内容の充実を図った。
- (ウ) ゆるやかな担当制・異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践をとおし一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行った。
- (エ) I C Tの活用で保育士の業務省力化を図り、少しでも多く子どもたちの育ちに寄り添える時間を作った。

2 保育者としての専門性を高める

- (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行った。
- (イ) 自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげた。
- (ウ) 共育（ともに育つ）支援を行う。内容としてはホームページ・クラスだより・連絡ノート等を活用し教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していった。

3 食育の推進

- (ア) オープンキッチンを生かした食への興味・関心への取り組みや、管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れた。
- (イ) 保護者にも「食」の大切さを分かりやすく伝えるための献立表の工夫や講座等の実施。

4 地域における公益的な取組

- (ア) 自治会や地域コミュニティーセンターと連携して地域行事への参画や地域が活気づく活動の推進に協力した。
- (イ) 地域ボランティアの積極的な活用で、園運営への協力と透明性の向上をはかった。
- (ウ) 総合相談窓口を設けた。

【実施事業および定員の状況】

利用定員	105名						
年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
	9名	18名	18名	20名	20名	20名	105名
実数	9名	18名	24名	20名	11名	5名	87名
特別保育	延長保育						
	障がい児保育						

【途中入園、対園児童数の状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	9											1
1歳	3											
2歳							2					
3歳												
4歳		1										
5歳		1	▲1									

【職員数】

	園長	(主任) 保育士 <正職員>	保育士 <パート>	管理栄養士 栄養士	調理師	看護職員	事務員
平成31年 4月1日	1名	13名	4名	3名	1名	0名	1名
令和1年 度実数	1名	16名	4名	3名	1名	3名	1名

2019年度 認定こども園長尾学舎 事業報告

【概況】

認定こども園 長尾学舎は、2020年4月より定員80名で開園する。

長尾地区の子ども達の受け皿としての機能だけでなく、教育・保育の内容や質を、保護者が選択できる機能を持たせる目的がある。教育・保育方針やその内容が支持され、信頼され愛されるこども園するために、子ども・保護者・地域・そして保育者が、共生（ともに生きる）・共育（共に育つ）の精神を醸成できる環境づくりに努めた。

開園後、利用者に選ばれる園として自園の強みを発信し、地域の子育ての拠点として子育て支援センターを開放するとともに、法人の特長を生かした多種別横断の相談拠点として関係機関・地域との連携を図りながら取り組みを進めた。

障害児事業所との連携や、高齢者施設への交流の実施、職員間の交流にて園児に美術指導を行った。

また、多くの園児の受入れを行うため職員の確保を重点的に行い、より質の高い教育・保育が提供できるよう保育教諭の専門性の向上に取り組むと同時に、ICT導入による業務の効率化をはかり、職のモチベーションアップ・処遇改善につなげていった。

●認定こども園 長尾学舎 教育理念

「心身ともに満足できる遊び」を中心とした乳幼児教育の提供を通して、小学校への滑らかな接続を行う。また、それにより感じられる「自己肯定感」により、自信と生きる力を育て、生涯にわたる人格形成の基礎を築く。

①教育方針

「豊かな人間性を育て、生きる力の基礎を培う」ことを目的とし子どもの最善の利益を保護すると共に、保護者のニーズに応えた園の運営であり、地域の子育て支援の拠点施設としての役割を担う。

◇教育・保育の提供を行い、ゆたかな人間性が育つためにふさわしい生活の場を実現する。

◇教育・保育の専門知識と技術及び判断を以って、子どもの健康・安全・情緒の安定を図り、自主性と生活力の発達を促す保育実践に努める。

- ◇子育て支援の視点から、必要性に応じてお育てに関する相談・助言に努め、社会的役割を果たす。
- ◇教育・保育内容の充実・職員数の充実により、計画定員の早期充足を達成し、安定した経営をしていく。
- ◇小学校への円滑な接続が成せるよう、子ども一人ひとりの育ちを支える。
- ◇地域教育を重んじ、地域行事へ参加することで、伝承を継承し、地域の魅力を楽しめる子どもを育てる。

②教育目標

- ・元気で明るくたくましい子ども
- ・自分で考え、最後までやり抜く子ども
- ・自分の思いを言葉や態度で表現できる子ども
- ・思いやりがあり、ともだちを大切にする子ども
- ・基本的生活習慣が身についている子ども

③職員行動指針

- ・尊敬の気持ち
- ・挨拶
- ・笑顔
- ・言葉遣い
- ・職員協調（人を大事に、施設を大事に）
- ・向上心

【基本方針】

- 1 教育・保育内容と職員の充実で計画定員の早期充足を達成し安定した運営をしていく。
- 2 小学校への滑らかな接続が行えるよう、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う。
- 3 地域教育を重んじ、地域行事や伝統の継承や地域の魅力を楽しめる子どもを育てる。

【年度目標】

- 1 笑顔であいさつ
- 2 利用者や地域の方々とのつながりを大切にし、心に向けて信頼関係を築く。

【事業・運営実績】

- 1 より質の高い教育・保育を実践
 - (ア) 認定こども園 教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく、乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、PDCAサイクルを用いて質の向上を目指した。
 - (イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り広げることのできる環境づくり、年齢を超えた子ども同士の関わりが自然にできるわくわくタイムやのびのびタイムなどの環境設定を進め、発達に即した教育・保育内容の充実を図った。
 - (ウ) ゆるやかな担当制・異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践をとおし一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行った。

(エ) ICT の活用で保育士の業務省力化を図り、少しでも多く子どもたちの育ちに寄り添える時間をつくった。

2 保育者としての専門性を高める

- (ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行った。
- (イ) 自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげた。
- (ウ) 共育（ともに育つ）支援を行う。内容としてはホームページ・クラスだより・連絡ノート等を活用し教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していった。

3 食育の推進

- (ア) 栄養士・調理師が保育教諭と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れた。
- (イ) 保護者にも「食」の大切さを分かりやすく伝えるための献立表の工夫を実施した。

4 地域における公益的な取組

- (ア) 地域子育て支援センター事業により、さぬき市内外の子育て家庭の癒しの場としての活動や、子育て支援・相談・助言を行った。
- (イ) 文化祭や福祉まつり等地域行事への参画や地域が活気づく活動の推進に協力した。
- (ウ) 地域ボランティアの積極的な活用で、園運営への協力と透明性の向上をはかった。

【実施事業及び定員の状況】

利用定員	80名						
年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
	3名	16名	16名	19名	13名	13名	80名
実数	12名	10名	10名	12名	3名	0名	47名
特別保育	延長保育						
	障がい児保育						

【途中入園、退園児童数の状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	2		1		1	1	1	1	2			3
1歳	8									1	1	
2歳	7			1	▲1		1	3		▲1	▲1	1
3歳	9				1	1		1				
4歳	3											
5歳	0											
総数	29	29	30	31	32	34	36	41	43	43	43	47

【職員数】

	園長	(主幹) 保育教諭 <正職員>	保育教諭 <パート >	栄養士	調理師	看護職員	支援セン ター	事務員
平成 31 年 4月 1 日	1 名	10 名	1 名	3 名	1 名	1 名 (正規)	2 名	1 名
平成 31 年 度実数	1 名	11 名	3 名	2 名	1 名	1 名 (パート)	2 名	0 名